

サンプル

就学前施設 危険予知訓練

— 保育所・幼稚園・認定こども園版KYT —

ポイント例編

青山 璃子
保育士 1年目

MS&AD

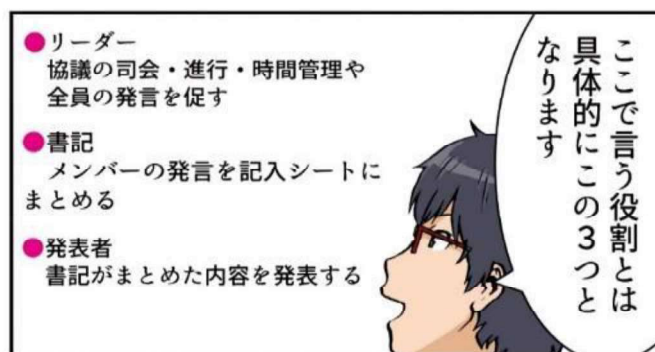
あいおいニッセイ同和損保

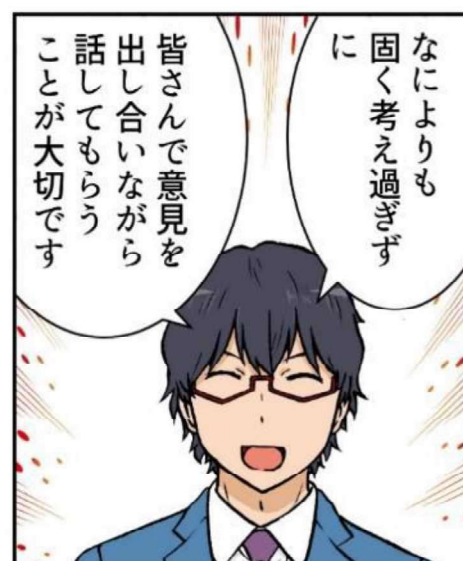
四田 みか
保育士 1年目

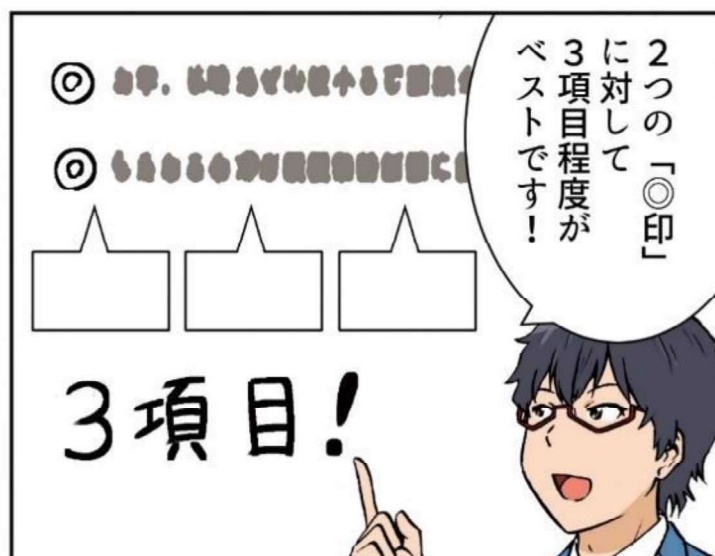
目次

★職場でのKYT実践のポイント.....	7
★講師用トークスクリプトと進め方の留意点.....	8
イラスト No. 1	10
イラスト No. 2	11
イラスト No. 3	12
イラスト No. 4	13
イラスト No. 5	14
イラスト No. 6	15
イラスト No. 7	16
イラスト No. 8	17
イラスト No. 9	18
イラスト No. 10	19
イラスト No. 11	20
イラスト No. 12	21
イラスト No. 13	22
イラスト No. 14	23
イラスト No. 15	24
イラスト No. 16	25
イラスト No. 17	26
イラスト No. 18	27
イラスト No. 19	28
イラスト No. 20	29

ポイント例編







★職場でのKYT実践のポイント

□ 間違い探しではない

イラストにいくつ問題点があるかについて話し合うことが目的ではありません。

□ 答えは限りなし

想像力を働かせれば危険は無数に存在します。そのため「正解」はありません。

⇒気づいた「危険」について積極的に意見を出し合い、共有化をはかること。

⇒どんな意見でも自由に述べられる雰囲気の醸成が重要。

□ 場面設定を行う

登場人物や器具・設備面などの状況設定に関しても深く踏み込んで考えるとよいでしょう。

□ 繰り返し行えば効果的

同じイラストについて一定期間後に再度議論を行うことも有効です。

⇒最初に気づけなかった「危険」に気づくなど、危険予知能力の向上を実感。

□ コミュニケーションの活発化

日常業務において職員同士で「危険」に関する情報共有化を促進します。

★講師用トークスクリプトと進め方の留意点

ラウンド	講師用トークスクリプト	進め方の留意点
前段  およそ 3～5分	①(必要に応じて)メンバー同士で自己紹介をしましょう。 ②リーダー(司会)、書記、発表者を決めましょう。	① 担当クラス・氏名など簡単に自己紹介をします。 ② 時間をかけずに行います。決め方は立候補、じゃんけんなど自由です。 <役割の解説> リーダー:協議の司会・進行・時間管理や全員の発言を促します。 書記:メンバーの発言を記入シートに記載します。 発表者:書記が記載した記入シートの内容を協議終了後発表します。
IR  およそ 8～10分	①IRは「どんな危険が潜んでいるか」を話し合ってもらいます。危険要因と引き起こされる事故を「～なので～になる」という形を意識してみんなで挙げていきましょう。 ②目安は5項目以上です。 <ワンポイント>「他のグループよりもたくさん意見を出しましょう(出したグループが勝ちです)」「他のグループからは挙がらない意見を少なくとも一つ考えましょう」など、ファシリテートにアクセントを盛り込むことで楽しみながらKYTを行う工夫をしても良いでしょう。	① その場で思いついた内容をワイワイ話し合いながら共有しましょう(各自が記入シートに記載してからすり合わせますと、時間がかかり、メンバーにプレッシャーがかかるため、あまりおすすめしません)。 ② 可能な限り多く挙げてもらいましょう。記入欄が不足した場合は、別紙や余白、裏面などを活用しましょう。 <ワンポイント>なかなか意見が出てこないグループに対しては「どんな園児でしょう?」「どんな特徴・個性をもっているでしょう?」「などイラストの登場人物の設定を連想させるアドバイスや、「設備・器具の不具合はあるでしょうか?」など設備・器具面に関する状況に目を向けさせると良いでしょう。

ラウンド	講師用トークスクリプト	進め方の留意点
2R  およそ 5～8分	① 1Rで挙げられた項目の中から特に危険だと感じる「危険のポイント」を2つ選び◎をつけましょう。 <ワンポイント>なかなか選定できない場合は、メンバーみんなが納得できそうな項目をリーダーが選定し、「えいやっ」と決めることも必要です。	① ‘ 厳密に危険の程度を比較して「危険のポイント」を決めることは困難です。「そうだこれだ」とメンバーが納得できる項目をリーダーが中心になって決めましょう。
3R  およそ 8～10分	① 2Rで選んだ「危険のポイント」を防ぐにはどうしたらよいか、具体的な対策を考えましょう。 <ワンポイント>対策は「～しない」ではなく、「～する」「～すべき」という具体的に前向きな行動の形で示しましょう。	① ‘ 2Rで2つ選定した◎のそれぞれについて対策を3つ程度検討しましょう。 <ワンポイント>「見守りを増やす」「人手を増やす」といった対策は実行可能性が低いため、できるだけ避けるようにしましょう。
4R  およそ 5～8分	① 3Rで考えた対策の中で「すぐに実施できる」「すぐに実施する必要がある」重要な対策を1つずつ選び、「重点実施項目」として※をつけましょう。 ② 重点実施項目を盛り込んだグループ行動目標を設定しましょう。	① ‘ メンバーが納得できる「重点実施項目」をリーダーが中心になって決めましょう。 ② ‘ グループ行動目標は「今日からメンバーが気を付けること」です。メンバーが明確にイメージできる目標・行動であると良いでしょう。

NO.1 自由遊び

外で遊ぶ場面①:草木や花壇のある園庭で子どもが遊んでいます



危険要因と想定される事故（例示）

- 足元を見ておらず、石や木の根っこにつまずく。
- 虫や花を採ることに夢中になり、草に隠れた木の枝に突き刺さる。
- 下の環境（コンクリートと花壇）を予期できず高い場所から飛び降り、怪我をする。
- 木にぶらさがり、枝が折れ、尻もちをつく。
- 高いところに登りたくて、柵を越えようとする。

など

NO.2 自由遊び

外で遊ぶ場面②:遊具のある園庭で子どもが遊んでいます



危険要因と想定される事故(例示)

- 固定遊具での反対登り(滑り台など)で、降りてきた児童とぶつかる。
- 滑り台に登る時、声をかけられ、手すりから手を離す。
- 砂場でおままごとをしていて、砂がついた手をそのまま口に入れる。
- かくれんぼをしている際、夢中になって園から出てしまう。または倉庫に隠れる。
- かけっこに夢中になり、他児にぶつかる。

など

NO.3 自由遊び

中で遊ぶ場面①:保育室の中で自由遊びをしています



危険要因と想定される事故(例示)

- 目についたおもちゃを自由に棚から取り出し床に散らばった玩具で滑る。
- 摘まめる程度の小さい玩具を口にに入れて、飲み込みそうになる。
- おもちゃを持ったまま転び、おもちゃで体を打つ。
- 屋内であるためスペースが狭く、お互い気づかずにぶつかる。
- 的あて遊びで、投げる方向や力のコントロールができず他児にぶつかる。
など